

箕面市立船場生涯学習センター及び箕面市立船場図書館 指定管理者候補者選定会議 議事概要

1. 会議の開催状況

- (1) 開催日時：令和7年（2025年）10月23日（水）15時15分から16時00分
- (2) 開催場所：箕面市役所 別館5階 会議室C
- (3) 出席者：遠近 高明（子ども未来創造局担当副部長）【会長】
野澤 昌弘（総務部長）【副会長】
三島 新平（子ども未来創造局副部長）
山根 貴之（子ども未来創造局担当副部長）
小倉 嘉夫（大阪青山大学教授）
- (4) 事務局：子ども未来創造局生涯学習・市民活動室
子ども未来創造局中央図書館
- (5) 応募者：国立大学法人大阪大学

2. 議事概要

- (1) 審査対象施設等について
 - ・事務局から審査対象施設や選定方針の概要について説明を行った。
 - ・箕面市立船場生涯学習センター（以下「センター」とする。）及び箕面市立図書館（以下「図書館」とする。）の施設の運営については、平成28年に大阪大学箕面キャンパス移転に係る正式合意を締結し、本施設は指定管理者制度により将来にわたり施設の維持管理・運営業務について無償で大阪大学に委ねることとなっていることから、今回においても非公募での選定を実施することとする。
 - ・生涯学習センター条例条例第5条第1項第2号及び図書館条例第20条第1項に基づき、委員会は国立大学法人大阪大学を指定管理者にしようとする者として選定している。
 - ・生涯学習センター条例条例第5条第4項及び図書館条例第20条第2項に基づき、提出された事業計画書等を審査し、設置目的を最も効率的に達成することができるかどうか審査する。
- (2) 会議の流れについて
 - ・会議の流れについては下記のとおり。
 - ① センターにかかる概要説明、質疑応答、審査
 - ② 図書館にかかる概要説明、質疑応答、審査
 - ・審査については、生涯学習センター条例条例第5条第4項及び図書館条例第20条第2項に基づき、事業計画書その他の書類の内容等について審査し、「指定管理者制度

の運用にかかる指針」にある審査基準を準用し、それぞれの項目を確認、評価の上、合議制により総合的に候補者として適正かどうかを判断いただく。

- ・なお、国立大学法人大阪大学から提出された法人の業務内容、財務諸表、定款に加え、センター及び図書館の各事業計画書（施設の維持管理、人員配置計画、事業の実施内容等）を事前に事務局から各委員に配布し、審査することとした。

（３）センターに関する審査

- ・事務局からセンターの開設の経緯や主な業務内容について説明があった。
- ・その後、センターに関する質疑応答があった。（主な質疑については以下のとおり。）
 - （質問）事業計画書に「生涯学習講座の提供」と記載があるが、今後、どのような内容の講座を実施する予定か。
 - （回答）大学の文化・教育・研究成果を活かした多様な講座を企画・開催していく。また、これまで、子ども向けの運動教室や音楽・図書館活用講座など、幅広い年齢層を対象とした講座も開催しており、今後も市民の多様なニーズに応じた学びの機会を提供し、豊かな人生や交流の場を創出するとともに、センターの認知度向上にも努めていく。
 - （質問）講座に関わるテーマや内容の決定には、事前のリサーチや募集者増のための工夫は検討しているか。
 - （回答）生涯学習講座のテーマは、受講後のアンケート結果や利用者対応を通じてニーズ把握、また、これまで長年講座を企画してきた公益財団法人メイプル文化財団とも協議している。今後もパンフレットやホームページを活用し、周知を図っていく。
 - （質問）「利用者の快適性向上・経験豊かな業務従事者のスキルを活かしたサポート体制の整備」とあるが、具体的にどのような経験がある従事者を配置する予定か。
 - （回答）従事者は、中央・東・西南生涯学習センターを管理する公益財団法人メイプル文化財団の職員を配置する予定である。長年の文化施設運営や地域住民との信頼関係、公共施設予約システムの運用経験など、これまでの窓口業務の実績を活かした人員を配置したい。
 - （質問）指定管理者の評価（アンケート・意見交換会・合議等）で、これまでに寄せられた主な評価（良い点と悪い点）は。また、それらの評価に対して、どのような対応を行ってきたか。
 - （回答）今年度の利用者アンケートでは、施設の清潔さや設備、スタッフ対応に対して95%以上が満足と回答し、全体的に高い満足度が示された。一方で、稼働率の低さや多目的室の空調管理等の意見があった。稼働率については、新駅開業などで改善傾向にある。また、空調については改修できるよう予算要求

を行っていく。

(質問) 稼働率が低い室を高めるためにこういった取り組みを実施しているか。

(回答) ホームページやパンフレット作成、ブログ掲載、自治会への利用案内の配布など多様な広報活動を実施している。稼働率の低い屋外運動場では子ども向けイベントを開催する等、新規利用者の獲得に努めている。今後は新設タワーマンションが建設されるため、周辺でのパンフレット配布など、さらなる認知度向上に取り組む予定である。

<審査結果>

以上の審議経過やこれまでの運営実績から、国立大学法人大阪大学を指定管理者とすることで、効果的で効率的なセンター運営が期待できる。

よって、国立大学法人大阪大学が指定管理者候補者として適任である。

(4) 図書館に関する審査

- ・事務局からセンターの開設の経緯や主な業務内容について説明があった。
- ・その後、センターに関する質疑応答があった。(主な質疑については以下のとおり。)

(質問) 図書館で所蔵していない図書を、国立国会図書館など他館と連携した取り寄せや貸出は実施しているのか。

(回答) 所蔵していない図書や入手が困難な図書は、他自治体との相互貸借協定により他の図書館から取り寄せて提供している。

(質問) 事業計画書に「子ども読書活動推進業務・読み聞かせボランティア等、個人または団体との連携のもと、定期的にお話し会を実施。」と記載があるが、具体的には、どのような年齢層に対して、何回くらい実施する予定か。

(回答) 0歳から2歳を対象としたおはなし会を毎月2回実施しており、今後も継続予定。また、3歳から小学3年生程度までを対象としたおはなし会イベントも年に2回程度開催しており、引き続き実施する。

(質問) 事業計画書に「大阪大学の教育研究を妨げない範囲で」と記載があるが、「妨げる」とされる内容は？

(回答) 大学の研究に必要な場合や学生の試験期間に市民の利用を制限する可能性があるため記載しているが、開館以降実際に制限したことはない。

(質問) 午後8時まで開館していることで帰宅前に図書館を利用できるという利便性が魅力と感じている。このような立地条件を踏まえ、今後、公立図書館として、どのような役割を果たし、どのような取組を進めていく考えか。

(回答) 船場図書館は大学図書館機能も備えており、専門書に気軽に触れることができるという魅力がある。開館時間も長く、月曜日も開館しており、開館日数が多いという利便性をいかし、社会人の学び直しなど、人生100年時代の生涯学習の場としてその機能をさらにいかせていけるようになって考えてい

る。

(質問) 図書の展示テーマなどは公共図書館同士で情報交換したりしているのか

(回答) 市内図書館で時期を合わせて統一テーマで展示することもあれば、各館で利用者の状況をみてスペースに合わせてテーマを選定する。全館長が集まる定期的な情報共有の場もあり、情報交換を行いながら取り組んでいる。

<審査結果>

以上の審議経過やこれまでの運営実績から、国立大学法人大阪大学が管理運営することで、効果的で効率的な図書館運営が期待できる。

よって、国立大学法人大阪大学が指定管理者候補者として適任であるとの結論に達した。